

大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	慶應義塾大学
整理番号	B-II-4
事 業 名	グローバルエンジニア育成のための欧州理工系大学との連携プログラムの構築

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価) <div style="font-size: 2em; font-weight: bold; text-align: center;">A⁻</div>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント) <p style="margin-top: 20px;"> 本事業は、理工学部修士課程学生の欧州理工系大学とのダブルディグリー(DD)プログラムを中核として、博士課程学生、学部学生にもグローバルな環境で修学、研究ができる枠組みを提供し、学生のグローバル人材としての成長及び大学の世界展開力強化に貢献することを目的としている。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 交流プログラムの枠組みについては、修士課程学生のDDプログラム及び博士課程学生の国際的協同事業の相手大学数が増大し、本事業の進展・拡大がなされた。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 外国人学生の受入のための環境整備については、学期前に日本語サマースクールを開催して、日本語教育と日本文化の紹介を実施し、日本への留学の心理的ハードルを下げるなど、きめ細かい準備を実施したことが評価できる。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 事業の実施に伴う大学の国際化については、本事業を通じて、学生の多様な異文化に対する対応能力が確実に強化され、教職員の国際化に対する意識も向上した。また、欧州の大学をはじめとする海外の大学との連携が重層的に進み、大学の国際化が進展した。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 目標の達成状況については、相手大学数が増大されたため、参加学生数が増大し、その目標は概ね達成できたと言える。一方、英語力の進捗を把握するためにTOEFLスコア情報管理システムの構築を目指していたが、ほとんど進展がなく、英語力の向上の適切な把握がなされていないとは言えない。英語力の進捗管理ができるシステムの構築が望まれる。 </p> <p style="margin-top: 20px;"> 今後の展開及び我が国の大学教育のグローバル展開力の強化に対する貢献については、欧州の大学とのネットワークの強化や、DDプログラムの一層の拡充が期待される。本事業を今後とも維持・発展させるとともに、積極的に情報発信を行い、貴学の他学部や他大学へと展開されることが望まれる。 </p>	